

住状態の将来予測」を報告した。

(鈴木 透記)

第65回日本民族衛生学会総会

日本民族衛生学会の2000年年次総会(会長:竹本泰一郎 長崎大学医学部公衆衛生学教授)は11月15~16日、長崎厚生年金会館で開催され、本研究所から情報調査分析部の佐藤龍三郎部長と人口構造研究部の大場保室長が参加した。また総会に引き続き11月17日に本学会の創立70周年を記念して“Human Ecological Determinants”と題する国際シンポジウムが開かれた。

総会では、特別講演()“Gene/Environmental Interrelationships in Adaptation and Fitness”(G. A. ハリソン・オックスフォード大学名誉教授)、特別講演()「長崎に於ける公衆衛生学の伝承と発展の歴史」(中西啓・日本医史学会理事)、学会長講演「噴火災害の健康影響:人類生態学的視点から」(竹本泰一郎・長崎大学教授)がなされ、一般口演は53題にのぼった。佐藤は「保健統計・人口(1)」の分科会で出生動向基本調査データに基づき「近年における日本人の避妊行動」と題する発表を行なうとともに、「保健統計・人口(2)」の座長を務めた。(佐藤龍三郎記)

人口高齢化と人口減少に対する政策対応に関する国連専門家会議

2000年10月16日(月)~18日(水)の3日間、ニューヨークの国連本部において「人口高齢化と人口減少に対する政策対応に関する国連専門家会議」が開催され、本研究所から筆者と勝又幸子(総合企画部第3室長)の2名が参加した。本専門家会議は、本年1月に国連人口部が先進8ヶ国(日本、韓国、米国、ロシア、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス)について試算した「補充移民(replacement migration)」をメディアに発表し、それが特に米国、欧州で反響を呼んだことから、当該8ヶ国の人口と社会政策の専門家を国連に招いて、この問題を集中的に討議するために開催したものである。(国連人口部は、本年3月に、試算の最終結果を(United Nations, 2000-a)として報告書にまとめた。)

国連人口部の最新推計(United Nations, 1999)によれば、先進諸国の人口の多くは、現在進行中の少子化と長寿化により高齢化が進行し、21世紀前半のいずれかの時点で減少を始めるものと予想される。同人口部は、前述の先進8ヶ国とEU、ヨーロッパ全域の10ヶ国・地域の各々について、同人口部の仮定した出生率、死亡率の下で推計される推計人口におけるピーク時点の(1)総人口、(2)生産年齢人口、(3)潜在扶養指数(potential support ratio) - 従来の従属人口指数(the aged dependency ratio)の逆数 - を2050年まで維持しようとするばどれだけの移民(純移動)が必要かを算出し、これを「補充移民」と呼んだ。本専門家会議は、国連人口部の補充移民に関する報告書への評価を含めて、参加国の人口動向の見通し、高齢化と人口減少のインパクト、それに対する人口面(出生率、移民)ならびに社会経済面での政策対応を検討することを目的とした。

招へいされた19名の専門家は、各国・地域の人口動向と政策対応についての論文を事前に提出するよう要請され、会議ではそれらを集めた暫定資料集(United Nations, 2000-b)が配布された。なお日本についての論文は、Atoh, Makoto, The Coming of a Hyper-Aged and Depopulating Society and Population Policies - The Case of Japan と Katsumata, Yukiko, The Impact of Population Decline and Population Aging in Japan from the Perspectives of Social and Labor Policy である。

会議では、冒頭に国連人口部シャミー(J. Chamie)部長から会議の趣旨説明があり、続いてメディア、国連職員、各国の国連代表部に向けた公開パネル討論が行われた。筆者は3人のパネリストの1

人して、日本における少子化動向、人口見通し、高齢化への対応、外国人労働も含めた労働力拡充政策について、他の先進諸国と比較しつつ報告を行なった。以下、下記の ~ の議題に沿って活発な討論が行なわれた。

多岐にわたる議論を要約することは難しいが、いくつかのポイントを列挙すれば以下の通りである。

- (1) 先進国、とくにヨーロッパ諸国の人口見通しについては、一部に、将来の移入民の規模ならびに寿命の伸びが過小評価されているという指摘があった。ほとんどの先進国で出生率が人口置換水準を下回り続けること、その結果として将来なお人口高齢化が進み人口減少が始まるという点については、ほぼ意見の一致をみた。
- (2) 高齢化と人口減少にともなう社会経済問題としては、年金制度の維持の難しさ、高齢者のための医療コストの増大、労働力自体の高齢化にともなう生産性の低下などが指摘された。
- (3) 人口高齢化と人口減少を阻止する方策としての移民戦略は、人口の面では短期的には有効かもしれないが、政治的、社会的には受け入れ難い規模が必要となるであろう。また長期的には人口面でも解決策とはなりえない（出生率の上昇が唯一の解決策である）。一方、出生率向上戦略もなかなか有効に働かないとの見方が多かったが、女性の仕事と家庭の両立施策は一定の有効性をもつのではないかという指摘もあった。
- (4) 少なくとも今後25年間の人口高齢化の進展は人口モメンタムによって必然的であるから、これに対する政策対応は不可避であり、それは多くの分野で行われるべきである。例えば、女性の一層の労働参加、移民、退職年齢の引き上げ、退職者への社会保障給付の削減、現役労働者の負担の増加、社会保障制度の賦課方式から積立方式への移行、労働生産性の向上などが重要であるとの指摘があった。

Monday, 16 October 2000

Morning Session (10:00AM - 1:00PM)

. Opening of the Meeting

Welcoming

Mr. Joseph Chamie (United Nations Population Division)

. Panel Discussion

Ms. Isabelle Piquer, Moderator (Correspondent, EL Pais)

Mr. Makoto Atoh (National Institute of Population and Social Security Research, Japan)

Mr. Paul Demeny (Population Council, United States)

Ms. Charlotte Hoehn (Federal Institute for Population Research, Germany)

. Review of Demographic Trends and Prospects

Introduction by Ms. Hania Zlotnik (United Nations Population Division)

Afternoon Session (3:00PM - 6:00PM)

Continuation of Item .

. Consequences and Problems

Introduction by Mr. Jean-Claude Chesnais (Institute National d'Etudes Demographiques)

Tuesday, 17 October 2000

Morning Session(10:00AM - 1:00PM)

Continuation of Item .

. Policy Options

Introduction by Mr. Anatoly Zoubanov(United Nations Population Division)

A. Policies Relating to Determinants of Demographic Changes

1. Fertility

Introduction by Mr. Antonio Golini(Universita di Roma)

Afternoon Session(3:00PM - 6:00PM)

2. Health/Mortality

Introduction by Mr. Namhoon Cho(Korea Institute of Health and Social Affairs)

3. International Migration

Introduction by Ms. Ellen Brennan-Galvin(United Nations Population Division)

B. Policies Relating to Consequences of Demographic Changes

Introduction by Mr. Michael Teitelbaum(Alfred P. Sloan Foundation)

Wednesday, 18 October 2000

Morning Session(10:00AM - 1:00PM)

. Future Research

. Consultations, Discussion and Follow-up

Afternoon Session(3:00PM - 6:00PM)

Continuation of Item .

. Conclusion and Closing of the Formal Sessions

Summary by the rapporteur

(参考文献)

United Nations (1999), *World Population Prospects:1998 Revision*.

United Nations (2000-a), *Replacement Migration : Is it a Solution to Declining and Aging Populations?*, (ESA/P/WP.160).

United Nations (2000-b), *United Nations Expert Group Meeting on Policy Responses to Population Aging and Population Decline, New York, 16-18 October, 2000*. (ESA/P/WP.163).

(阿藤 誠記)

リプロダクティブヘルスとH I Vに関する共同プロジェクト資料収集

HIV / AIDS は世界で感染者数が3600万人以上にのぼる世界的規模の重大な人口問題である。AIDS による死亡の増加と余命の減少がサハラ以南のアフリカを中心に深刻な問題となっていて、社会不安の増大のために世界の安全保障を脅かすまでになっている。日本を含め、アジアでも感染者は急増中である。また1994年にカイロで行なわれた国際人口開発会議 (ICPD) やその5年後の国連人口特別総